

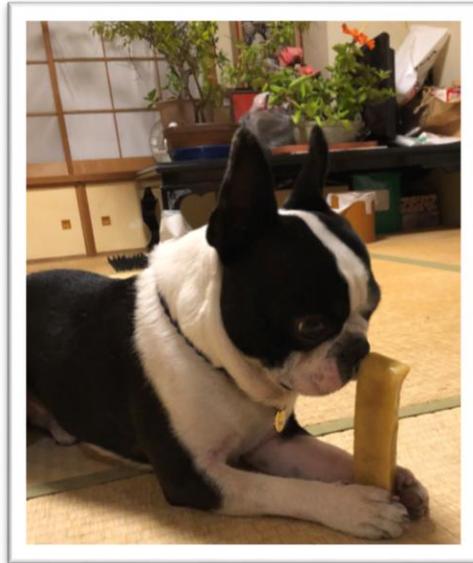
工房だより

～ ペットののための自然食キッチンから～

鹿肉フードが仲間入り
試してほしいワン!!



琥珀くんは、大好きなチーズをもらって、しばらく眺めてから食べ始めるとか…。写真は眺めているところ(笑)。
食べ始めると・・・すばらしい集中力、なんと3時間噛みっぱなしだったそうです。その集中力分けていただきたいですね。



琥珀くん 4才
(ポストンテリア)



Say cheese!

ワンちゃんのお写真募集中!
メールにて、どんなワンちゃんか一言添えてお送りください。採用された場合には心ばかりのお礼をお送りします。
info@petfood-kitchen.co.jp



群の食いつきをお試ください。
高タンパクで低脂肪、鉄分豊富な理想的な健康食材「鹿肉フード」是非、抜いて頂きます。
国産・野生鹿肉の中で私たちが安心して食べられるプレミアムな鹿肉を使用しています。

大変お待たせいたしました。先月の工房だよりでお知らせして以来、「楽しみにしています」とのたくさんのお声を頂戴いたしました。嬉しい限りです。
鹿肉フード 販売価格
440g 普通粒 1,700円 (税別)
1.2kg 普通粒 4,180円 (税別)
初回限定ですが通常1,700円440gが20%OFFの1,360円(税別)購入いただけます。なお、できたて便を利用しているお客様が、鹿肉フードを定期便に追加購入いただく場合は10%OFFとさせていただきます。

五月二十四日より
鹿肉フードの販売スタート



必須アミノ酸、ビタミンEなど、栄養豊富な白ごまを使用。

ごまの栄養素「リグナン」は話題の栄養素であり成分のセサミンやセサミノール・セサモリンに抗酸化作用があることも注目されている理由のひとつです。また、ごまに含まれるタンパク質は100g中約20gと肉や魚並みだといわれています。たんぱく質は約20種類のアミノ酸で構成されていますが、体内で合成されない必須アミノ酸は食品から摂らなければなりません。ごまにはその必須アミノ酸がバランスよく含まれています。
あえてすりごまを使用する理由は、すりごまの方が栄養吸収が良いためです。

こだわりの原材料シリーズ
ドッグフード工房のすりごま



皮膚・被毛の健康 ②

春と秋、犬の毛が生え替わる時期を換毛期と呼び、これは人間の衣替えのようなものです。

この時期に換毛することは、体温を調整し、より快適で健康に、夏や冬を過ごすためにとっても重要なこと。換毛期にブラッシングを行わず抜けるべき毛が残ったままだと、皮膚の風通しが悪くなり皮膚病の原因にもなります。

またブラッシングは皮膚の血行を良くし、リラックスさせる効果もあります。

ブラッシングの目安は、ワンちゃんが立った状態なら十分、寝そべった状態なら二十分程度といわれています。

ブラッシングする際は、毛並みに逆らって行うと不快感が生じます。ブラシは毛並みに沿って行なうようにしましょう。無理強いをせず、終わったらご褒美におやつなどを与えて、ブラッシングするといいいことがあると思ってくれるようにすることがブラッシングを継続するポイントです。

長毛でやわらかい毛質には、ピンブラシ、短毛で固めの毛質にはスリッカーブラシがおススメです。

嫌がる小型犬には、グローブタイプがおススメです。

ブラッシングの際、ブラッシングスプレーなどで、被毛を湿らせた状態で行うと、毛の飛散や静電気が抑えられ、毛の絡まりを取るといった効果も期待できます。



ピンブラシ



スリッカーブラシ



グローブ

お知らせ

お客様の声から 誕生！

超小型犬用 できたて定期便

小さいワンちゃんだとどうしても32gを期限内に食べ切ることが出来ない…

しかし定期便で購入したいと、たくさんのお声を頂き、ご用意させて頂きました。お好きな組み合わせをお選びいただけます。800g×3袋 通常5,100円(税別)を5%offの4,845円(税別)です。まずは、お客様窓口までご連絡下さい。

お客様窓口 0120-634-436

桑の都 八王子

織物の歴史(上)

「桑都(そうと)」とは八王子を指す美称です。古くから養蚕(ようさん)や織物が盛んであったことの表れです。

「八王子織物」とは、もとは周辺の村で織られ、八王子の市(いち)に集められた織物のことでした。八王子は関東山地と武蔵野台地の境に位置し、山がちで耕作地が少なかったため、養蚕や機(はた)織りが、古くから農家の大切な仕事でした。また、桐生(きりゅう)や足利(あしかが)などの織物技術の先進地や、江戸という大消費地に近く、織物業が発展するために、地理的にも有利な条件が揃い発展していきました。

しかし、明治十年代、輸入された粗悪な化学染料を使用したため、品質が低下し、市場から締め出されてしまいました。



信賴回復のため、明治三十二年には製造業者を含めた八王子織物同業組合が設立され、同年、八王子を会場として一府九県連合共進会を開催、学校なども開校し、八王子では産地全体で近代化に取り組み、徐々に成果を上げていきました。明治時代半ばには、ジャガードなどのような外国の技術が入り、新しい形の手織り機も出現。大正時代以降、力織機(りきしよつき)が普及し、産業構造が大きく変化。機業(機屋。織物製造者のこと)は動力を求めて市街地へと移り住み、労働力は町の大きな機屋へ。また、撚糸(ねんし)業・整理業・染色業のように、織物工程の分業化が進み、昭和期にかけてさらに細分化。八王子の織物業は、工場制工業の段階へ至り、八王子の町は織物生産の中心地となり、名実ともに八王子織物として、その爛熟(らんじゅく)期を迎えました。

※出典 八王子市ホームページ

